

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671200210
法人名	社会福祉法人 妙光福祉会
事業所名	寒河江やすらぎの里 認知症高齢者グループホーム
訪問調査日	平成 19年 8月 7日
評価確定日	平成 19年 10月 10日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	671200210		
法人名	社会福祉法人 妙光福祉会		
事業所名	寒河江やすらぎの里 認知症高齢者グループホーム		
所在地 (電話番号)	山形県寒河江市本楯二丁目24番地1 (電話) 0237-83-0596		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年8月7日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(平成18年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 14.8 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造一部S 造り	1階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	850円 ※特別室1,050円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	9 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寒河江市立病院 ・ 井上歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ホームはもう一つの我が家であり、利用者は家族である」と職員は考えており、ホームの理念でもある「安全、快適、やすらぎ」な生活を送ることができるように、穏やかでさりげない支援が行われています。また、利用者とホームと一緒に暮らす「癒し犬」2匹がもたらす心のやすらぎ、そして同じ法人が運営する保育園の子供たちからもらう最高の笑顔とふれあいが、利用者一人ひとりの表情の豊かさの源になっているようです。今年には認知症の方への理解と関わり方の学習会を職員研修の中にも取り入れ、今まで以上により深く利用者を理解していこうとする前向きな姿勢のホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、利用者に必要なサポートを行うことができるための検討が望まれる」という課題については、職員間や運営法人内で話し合われたが、「利用者の重度化に伴うケアと安全を優先すべき」という理由から、食事だけが利用者と一緒に食事を摂っている状況が前回同様に見られた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組んでおり、実施することの意義を理解し、話し合ったことを職員全員で確認している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月に1回行っているが、今までのところその内容は「ホームでの交流」と「認知症の理解」にとどまっており、ホームのサービス向上に活かすまでには至っていないため、運営推進会議が双方向的な会議となるよう配慮しながら、そこで出された意見・要望等を踏まえ、会議の内容が利用者・家族へのサービス向上にも具体的に活かされていく働きかけが期待される。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人内に苦情解決委員会を設けており、今日まで苦情はなかったが、意見や苦情がないことの怖さも常に職員は認識しながら、家族との会話の中から意見を引き出せるように心がけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区公民館の行事「はつらつ本楯」への参加や、地域の方に法人の夏祭りにきてもらう交流をしている。また、今後は地区の早朝作業への参加の取り組みも検討している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で法人の理念を基に、地域密着型サービスとしての視点を盛り込んだ内容を検討したが、事業所独自の理念を作り上げるまでには至っておらず、地域住民であるという意識を持ち、平成20年までには作り上げる予定である。	○	地域の中でその人らしい生活を支えていくという、地域密着型サービスの視点を盛り込んだ、事業所独自の理念を作り上げていくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットごとに理念の掲示の仕方を工夫し、常に目に入るようにしながら支援にあたっている。職員は、理念を見ることで支援の振り返りをするようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区公民館の行事「はつらつ本楯」への参加や、地域の方に法人の夏祭りにきてもらう交流をしている。また、今後は地区の早朝作業への参加の取り組みも検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組んでおり、実施することの意義を理解し、話し合ったことを職員全員で確認している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行っているが、今までのところその内容は「ホームでの交流」と「認知症の理解」にとどまっており、ホームのサービス向上に活かすまでには至っていない。	○	運営推進会議が双方向的な会議となるよう配慮しながら、そこで出された意見・要望等を踏まえ、会議の内容が利用者・家族へのサービス向上にも具体的に活かされていく働きかけが期待される。

山形県 寒河江やすらぎの里認知症高齢者グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の行事がある度にホームに声かけをしてもらい、交流を持つことで利用者の楽しみの一つになっている。また、福祉サービス相談員から職員のあいさつやケアの仕方の助言をもらい、利用者へのサービスの向上につなげた例もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動は月1~2回電話や面会時に必ず報告しており、毎月ホーム便りも発行している。金銭出納状況は1ヶ月に1回報告し、確認印をもらっている。また、年に1, 2回開く家族懇談会の場でも暮らしぶりをビデオで見てもらおうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内に苦情解決委員会を設けており、今日まで苦情はなかったが、意見や苦情がないことの怖さも常に職員は認識しながら、家族との会話の中から意見を引き出せるように心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動についてはホーム便りで家族に知らせており、また、利用者には職員交替があった時点から交流に時間をかけ、馴染みの関係を早く作れるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の重点的な取り組みとして研修に力を入れており、段階や勤務経験年数に応じた研修に職員全員が年1回は参加できるように年間計画を立てて実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ市内のグループホームの視察研修を実施している。	○	同業者との交流や実践的な学習の機会をより多く設け、認知症高齢者の特性とグループホームの特徴を活かしたサービスの質の向上につなげていくことが期待される。

山形県 寒河江やすらぎの里認知症高齢者グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の幅広い生活経験の中から、食事の支度や漬物のつけ方、干し柿の作り方、職員の気づかないことを教えてもらっている。また、昔の苦労話にも耳を傾けながら、思い出を共に語り合うことによって、学んだり支えあう関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を引き出すための時間を個別に設けており、難しい場合には家族に聞いたり、こちらからの問いかけに対する利用者の表情や仕草からわかる気づきも大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は本人や家族の意向や希望を聴き、職員全員で話し合いながら作り上げており、ケアに反映した計画書になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者支援の中で介護計画書に添った経過を記録に残して1ヵ月ごとの評価を書いており、その内容を職員全員で話し合い見直しにもつなげるようにしている。		

山形県 寒河江やすらぎの里認知症高齢者グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者全員がホームのかかりつけ医に変更するのでは なく、利用前からのかかりつけ医に通院できるよう職員 や家族で対応しており、適切な医療を受けることができ る体制である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化、終末期に向けた方針が職員全員で共有され、 利用時に家族や本人にも説明されている。看護師を24 時間体制で配置し、また、看取り検討委員会ででの検討 も始められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	個人記録は利用者の前では記載しないように徹底し、 トイレ誘導は言葉であらわに表現するのではなく、目印 を利用した誘導を取り入れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定はあるが、一人ひとりのペースを守りなが ら、その日に何をして過ごしたいかを聞いてから自然な 流れにも沿うようにしている。		

山形県 寒河江やすらぎの里認知症高齢者グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設されている老人保健施設の管理栄養士がホームの献立を立てており、「鉄板焼き」「餅つき」「かど焼き」など行事の際のメニューも充実しているが、「選択メニュー」や「お好みメニュー」は取り入れられていない。	○	利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューの工夫の一つとして、「選択メニュー」や「お好みメニュー」も取り入れながら、利用者一人ひとりが食事をより楽しめる働きかけを日常的に続けていくことが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる準備ができていることを説明しており、入浴拒否がみられた場合は担当職員を替えて対応したり、時間をおいて誘導する対応がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い、畑での収穫、「癒し犬」の餌係りなどの役割がそれぞれ決まっている。また、誕生会の際には利用者に大黒舞を踊ってもらい楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外に出かける機会も多く、散歩、自動車を利用しての買い物、併設の保育園児との交流にも出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員の気配りによる把握や確認とセンサーで対応されており、施錠する場合も必要最少限の範囲内で一時的に行われているのみである。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回、火災訓練を中心とした訓練を日中・夜間共に実施しており、地区の消防団の協力も検討中である。		

山形県 寒河江やすらぎの里認知症高齢者グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態を把握するために食事や水分の摂取量を記録しており、特に水分摂取に関しては、こまめに摂れるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れたさりげない置物や写真、カレンダーが掲示され、利用者が集うリビング兼食堂の天井は高く、ゆったりと落ち着いた生活空間になっている。また、両ユニットから見える中庭の花壇には季節の花が植えられ心を和ませてくれる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真を飾ったり、テレビや位牌を持ち込むことができ、利用者に合わせた居心地のよい居室になっている。		